

■第 37 回日本看護研究学会学術集会

学 会：一般社団法人 日本看護研究学会学術集会

メインテーマ エビデンスに基づいた看護実践を！ ―現場の研究熱を高めよう―

会 期：2011 年 8 月 7 日(日)～8 日(月)

会 場：パシフィコ横浜 会議センター

保健師・助産師・看護師の仕事の満足度と効き脳／思考特性や参画力との関係

○ 吾郷美奈恵, 石橋照子, 梶谷みゆき, 三島三代子 (島根県立大学短期大学部)

【 目的 】保健師・助産師・看護師の仕事に対する満足度と効き脳／思考特性や参画力との関係を明らかにし、キャリア形成するためのアプローチについて検討する。

【 方法 】対象は同一県内 3 病院と 3 市 1 町で働く看護職からモニターとして協力の得られた 237 (保 107, 助 15, 看 115) 名であった。調査はインターネットを活用したシステムを開発して行ない、対象がランダムに割り当てたパスワードで入力する方法である。依頼は各機関の看護代表者から文書を配付し行った。調査内容は、仕事に対する満足度と効き脳診断¹⁾、参画力²⁾、経験年数などである。効き脳診断は脳が最初に反応する第一感情を測定することによって、脳の思考特性とその特徴を可視化・数値化するもので[論理・理性脳][堅実・計画脳][感覚・友好脳][冒険・創造脳]による 4 側面で、200 点のバランスで示される。また、参画力は 4 側面各 3 問からなり、「そう思う：5」から「そう思わない：1」の 5 段階尺度である。また、分析は SPSS16.0 を用いて行った。

【 倫理的配慮 】島根県立大学短期大学部研究倫理審査委員会の承認を得、研究の主旨や評価とは関係ないことなどの倫理的配慮について文書と口頭で説明し、自由意思による協力を求めた。また、調査は無記名で行い、データの入力が完了した時点で同意の最終判断とした。

【 結果 】勤務年数は保健師 18.4±10.2, 助産師 14.7±10.1, 看護師 15.0±10.2 であった。仕事に対する満足度は保健師 66.1±17.2, 助産師 76.7±9.0, 看護師 57.3±20.6 で助産師の満足度は有意 ($p<0.05$) に高かった。効き脳診断は一般に看護者に高いと言われている特有の[感覚・友好脳]が 3 職種とも最も高く、[論理・理性脳]は助産師、[堅実・計画脳]は看護師、[冒険・創造脳]は保健師が高かったが有意差は認めなかった。参画力は保健師が最も高く 42.0±6.0, 次いで助産師 45.7±3.2, 看護師 40.5±6.5 であった。また満足度は、[堅実・計画脳]と有意 ($p<0.01$) な負の相関、[冒険・創造脳]と有意 ($p<0.01$) な正の相関を認め、経験年数が長いほど、また参画力が高いほど満足度も有意 ($p<0.01$) に高かった。

【 考察 】仕事の満足度に、[堅実・計画脳]や[冒険・創造脳]が関係していたが、参画力を高めることが重要であると考えられた。一方、満足度は経験年数とも関係していたが、職種による専門性や業務内容による影響が背景にあると考えられた。また、脳の思考特性は天性 3 割、後天 7 割といわれ、働く環境や役割等に応じて変化することから、個人のスキルアップやキャリア開発に活用可能と推察される。

文献：効き脳診断 BRAIN ガイドブック, フォルティナ株式会社, 2009, 東京. 大久保幸夫：キャリアデザイン入門 1 基礎力編, 日本経済新聞出版会, 2006, 東京.